

3) 人工種苗放流調査

人工種苗の放流はハマフエフキを主体に平成3年度から実施した。なお、放流は音響給餌ブイの直下で実施した。

① 中間育成

● 平成2年度

平成2年度は平成3年度放流予定のハマフエフキの大型種苗(200mm以上)を育成するために実施した。平成2年度の中間育成は7~9月の間水産試験場の150t水槽で行い、9月以降は座間味村の北岸水産株式会社の海面生簀で行った。

● 平成3年度

平成3年度は平成2年度から育成中の種苗を引き続き7月まで北岸水産株式会社で育成したのち渡嘉敷漁協に輸送した。平成3年度種苗の中間育成は当初6月より渡嘉敷漁協の海面生簀で行ったが、相次ぐ台風の襲来によりすべての種苗が幣死、逃亡した。このため9月から新たに種苗を入手し中間育成を実施した。なお、中間育成中の9月から放流日まで音響給餌ブイと同じ周波数により音響馴致を実施した。

● 平成4年度

平成4年度からはハマフエフキに加えスジアラの種苗放流計画を加えて実施した。ハマフエフキの中間育成については当初より渡嘉敷漁協の海面生簀で行ったが、スジアラについては8~10月まで水産試験場の20t水槽で中間育成した後渡嘉敷漁協に輸送して中間育成を継続した。音響馴致は10月から放流日まで約2カ月間実施し、さらに、この間生簀内に古タイヤとビールケースで作成した魚礁を設置し、隠れ行動のトレーニングを行い放流に備えた。

表-26 ハマフエフキの中間育成結果

年度	中間育成開始時		腹鰭抜去時		放流時		中間育成期間 (日)	歩留り (%)	備 考
	年月日	尾数	年月日	尾数	年月日	尾数			
2	90.7.19	20,000	91.9.3	500	92.01.22	428	552	2.1	台風により相当数幣死
				(215-384)					
3	91.9.10	3,000	91.10.01	1,857	92.11.05	815	35		
				(83-119)	93.03.31	825	182	54.7	台風により逃亡魚多し
						(120-190)			
4	92.10.3	3,000	92.11.18	2,478	92.12.17	2,422	75	80.7	
				(105-182)					
5	93.6.22	10,000	93.10.13	2,009	93.11.11	2,009	142	20.1	
				(79-120)		(106-144)			

表-27 スジアラの中間育成結果

年度	中間育成開始時		腹鰭抜去時		放流時		中間育成期間 (日)	歩留り (%)	備 考
	年月日	尾数	年月日	尾数	年月日	尾数			
4	92.8.6	1,072	92.11.18	208	92.12.17	180	133	24.2	生簀網サイズ不適により逃亡魚多かった
				(18-25)					
5	93.8.6	5,814	93.10.13	141	93.11.11	90	98	1.5	細菌性感性症により大量幣死あり
				(25-37)		(58-84)			
						(83-108)			